

2025年度公開科目（クラス授業）のご案内

※やむを得ない事情により、急遽、休講になる場合があります。

◆声楽関係

歌曲演習Ⅱ	各歌曲のさらに新しい時代の作品を多く取り上げ歌唱実践しながら、より作品にふさわしい歌唱法を見出し、豊かな歌唱表現を目指します。
イタリア語ディクシオンⅡⅣ	イタリアの歌曲やオペラを歌う上で必須の発音を学び、朗読を実践しアナリーゼと共に歌唱法を研究することで、発音の質を高めます。
ドイツ語ディクシオンⅡ	日常の会話体と舞台ドイツ語の発音の違いを知り、音符の上に乗せたときの母音や子音の処理の仕方を、リズム唱や歌唱を通して習得します。
オペラ演習Ⅱ	モーツァルトのオペラ作品をはじめ様々なオペラの場面を、簡単な小道具等を使用し、実際に歌い演ずることを通してオペラの表現法を学びます。
ミュージカル演習Ⅳ	ミュージカル・コースの科目。ミュージカル作品の舞台公演に向けて、ミュージカルの音楽・演技表現・芝居の基礎要素をより深めて学びます。
身体表現D	オペラ・ソリスト・コースの科目。舞台芸術において、演技者が観客に【伝える】ための身体的・感情的表現を理解し、修得します。
声楽作品特別研究AⅡ（※2）	指揮者／コレペティートル・コース（コレペティートル）の必修科目。イタリアおよびフランスの近代オペラの研究を通じて、文学的テキストと音楽的内容を理解し、楽曲分析・演奏解釈について学びます。

◆鍵盤楽器関係

鍵盤楽器講義（楽曲分析概論）	鍵盤楽器専修1年生の必修科目。作曲者の意図を読み取り、解釈による演奏の違いなどを吟味、比較しながら、様式感のある活き活きとした演奏表現に活かすことを目指します。
鍵盤楽器作品分析Ⅱ	ロマン派から20世紀の鍵盤作品の理解を深めることで、より豊かな演奏を目指します。
オルガン研究Ⅱ	オルガン作品の様式別（時代・地域）に、奏法及びレジストレーションの知識を得ます。ヨーロッパ各地の歴史的オルガンを紹介し、楽器と作品の関連性を研究します。

◆弦管打楽器関係

吹奏楽ⅡⅣ	弦管打楽器専修1・2年生の必修科目。ウインドシンフォニーという合奏形態を通じ、吹奏楽のあらゆるジャンルの音楽を演奏体験し、研究します。
室内楽B（ピアノを含む室内楽）	室内楽の基礎を学び、より高度なアンサンブルを研究します。ピアノを含む室内楽作品について、各パートの役割をより深く理解し、作品全体を立体的に捉えて演奏することを目指します。
室内楽B・D（金管五重奏）	室内楽の基礎を学び、より高度なアンサンブルを研究します。金管五重奏および金管を含む室内楽曲の基本的なレパートリーを修得します。

◆ジャズ関係

即興演奏Ⅳ	ジャズ専修2年生の必修科目。ジャズ・インプロヴィゼーションをするためのスキルを基にセッション形式で実践します。
-------	---

◆作曲、コンピュータ音楽関係（ソルフェージュ、楽器製作・音響を含む）

実用音楽ゼミⅡ（※1）	実用音楽コースの必修科目。ポピュラー音楽の実践的な編曲法をスタイル別に学び、編曲を行える能力を身につけます。
実用音楽研究Ⅱ	実用音楽コースの必修科目。サウンドトラックの模擬制作を通じて映画音楽作曲技術を周辺から学び理解します。
実用音楽研究Ⅳ	ミュージカルの音楽制作を通じて、作曲技法を学びます。
編曲法AⅣ	クラシック音楽、民謡、などのメロディーをポップス化することで、アレンジの基礎的な考え方とノウハウを学びます。

◆音楽情報、音楽療法関係(音楽情報・社会、マネージメント、西洋古楽、日本伝統音楽を含む)

器楽合奏Ⅳ	多様な人と協働する音楽づくりを通して、参加型音楽活動の基礎を学びます。臨床場面に応じた編曲や指揮などの技術を習得し、音楽の成り立ちを感知し、言語化する力を養います。
日本伝統音楽表現(箏)Ⅱ(※2)	箏という楽器に関する歴史を学び、基本的な奏法を正しく身につけます。

◆音楽教育、幼児音楽教育関係(教職科目を含む)

学校教育専門演習A	教員採用試験対策として、初見視唱・視奏、伴奏付け、弾き歌いの基礎的な知識・技能や豊かな音楽表現を身につけます。
教職概論	教職科目。学校教育や学校を取り巻く現状、現代の教育課題等について学ぶとともに、教職の意義や教員の具体的な職務内容、教員としての資質能力等に関する認識を深めます。
音楽科教育法Ⅳ	教職科目。教育上のねらいや目的をもった授業や、多様な教材と学習活動、教育方法の工夫や有効性などを検証しながら、学習指導の改善と工夫について研究・学習し、授業実践力を高めます。
教育社会学	子どもを取り巻く問題(学校を巡る近年の様々な状況の変化)を探り、多角的に捉えながら分析します。また、教育が時代や社会に規定されると同時に、規定していくことを理解します。
保育内容「言葉」の指導法	幼児の言葉を取り巻く現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めます。

◆音楽文化教育学科(学科共通科目)

音楽・心・身体	音楽表現と身体表現の関係についてリトミックを通して学びます。
---------	--------------------------------

◆基礎科目

音楽概論B	基礎課程の必修科目。西洋音楽の専門的学習に必要な用語や概念を、歴史的背景や実例に即しながら理解できるようになるための授業です。
教育メディア論	基礎課程の必修科目。ICT(情報通信技術)や各種メディアを活用し、情報・メディアリテラシーの基礎的な知識と技能を身につけます。

◆教養科目

建築の世界B	現代建築を取り巻く様々な状況を理解する上で、必要な知識を習得し、建築作品を読み解くまなざしを獲得します。
青年の発達と心理	青年期の発達の特性、青年期の発達に基づいた心理の特性について理解します。青年期の発達と心理に関する個人的・共同的な学習に主体的に参加できるようになります。
心理学B(※2)	人間の発達がどのようなものであるのか、主に心理学的な側面の発達について知識を深め、人間についての洞察を深めます。

◆外国語科目

外国語コミュニケーション (英語／ドイツ語／イタリア語／フランス語)Ⅳ	基礎課程の必修科目。各言語の「読む・書く・聞く・話す」力を身につけ、コミュニケーションできる能力を養います。
英語上級(購読・進学対策)B	リーディング力アップのためのスキルを学び、各種試験に対応できるような英語のリーディング力を身につけます。
ドイツ語会話上級B	ネイティブ・スピーカーとの「聞く」「話す」の練習を通して、日常会話を理解し、会話する能力を身につけます。
イタリア語文法上級B	これまで勉強していない文法事項や既習の事項について例外的な点を勉強し、より豊かなイタリア語の表現を理解したり味わうことができるようになることを目標としています。
ドイツ語文法初級B	ドイツ語のしくみの基本を身につけ、簡単なあいさつや会話ができる力、テキストを理解し短い文を自力で組み立てる力を身につけます。
言語と文化(フランス語)B	映像や資料によりフランスの文化と社会のあり方について様々な角度から考察します。日本文化との比較やグローバリズムなどの観点からも考えてみることで、より広い視野も養います。

※1:9月30日更新

※2:10月9日更新